フィジー

芽室西中学校
1年B組
石森 穂莉

世界で最も幸せな国

笑顔の合言葉

フィジーとは、オセアニア州にある島。人口は八十八、三十五万人（二〇一八年）ほど居る。面積は一万八千三百三十平方キロメートルある。気候帯は熱体雨林気候、年間を通して気候に恵まれた常夏の国。十二月～三月は雨季にあたり比較的降水量が多い。しかし、貿易風の影響により極端に雨が続くことはなく、エリアによっては、雨の少ないところもあるそうだ。

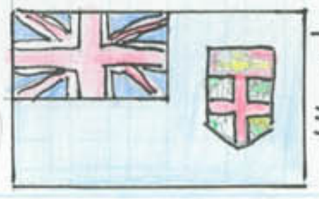
「世界で最も幸せな国」との代名詞を持つフィジー。フィジー人は仕事がなくても、お金がなくても、寿命が短くても、世界幸福度一位！世界六十五カ国を対象とした調査で、フィジー国民の九十三パーセントが幸せを実感している。その理由は、国民一人一人がすごく陽気で、どんな強面（こわもて）のフィジアンでも目が合えば「ブラッ！（こんにちは）」とにっこり。ホテルに泊まるとウェルカムソングで迎えてくれるなどとにかく陽気。いつしか「ブラッ！」は笑顔を引き出す合言葉のようになってくるそう。

フィジーと芽室

気候帯や気温などから見て、芽室町と比べるとあまり共通点は無さそう。でもさすがに一個や二個はあるだろうと思い調べてみた。まずは違うところ。気温。フィジーの平均気温は二十八℃。芽室町の平均気温は六、三℃なんと二十一、三℃も差がある。フィジーの気候帯は熱体雨林気候芽室町の気候帯は内陸性気候であり、年平均気温は六℃で夏は三十℃以上になる、一方で冬はマイナス二十℃以下まで低下するなど、年較差が大きい。

では共通点は。幸福度について。フィジーは世界で最も幸せな国です。では芽室町はというと。北海道では五位。幸福度はどちらも高くなっている。

違う点では面積も。芽室町の面積は五百十三、九平方キロメートル、フィジーは一万八千三百七十平方キロメートルと圧倒的にフィジーの方が大きい。その差は一万七千七百五十六、一平方キロメートルもある。フィジー



フィジーの食

フィジーの主食はイモ、イモの中でも、ダロ（タロイモ、タビオカ）、ドンが人が移り住み、ポリネシア文化の影響を受けた。一八七四年、フィジーはイギリスの植民地となる。なので今でも国旗にはユニオンジャックが抽かれている。一九七〇年英連邦王国として独立する。ロッマ島を保護領とする。

フィジーは伝説によると、フィジーに人が住み始めたのは約八千年前メラネシアンがカヌーブビティレブ島西海岸のウダ岬に上陸したのが始まりだとされている。フィジー最古の都であるサイセイセイはルーツナソバソバによって造営された。その後、米芋、キャッサバ、クマラ甘藷、サツマイモ、ヤムまたはウビ（ヤム芋）をよく消費している。イモ以外でも、イカ（魚）、ロロ（ココナッツ）、ロウロウ（タロイモの葉）にんじん、なすなどがある。肉は食べられているがインド人が多いことにより豚肉、牛肉を避け、鶏肉をよく消費する。料理は、インフィジアン料理がなじんでいる。住民の半数弱をインド人が占めているため、その影響でインフィジアン料理が定着している。他にもテイニブルマカウ（コンビーフ缶）パルサミは国民食。フィジーでよく食べられる果物はモリ（粗橘の総称。レモンやライム、ポポ（パパイヤ）、ココナッツ（ニウ）がある。デザートではイビ（チェスナッツ、栗の味に似ている）などが定番として食べられている。

フィジーの食の習慣について。もしフィジーの家庭に招いてもらうことができたら、料理は必ず家人より先に食べ始めるのがマナー。ゲストの食べ始めを待つのがフィジーの慣習です。そして、たとえローカル料理を求めているとしても、決して勝手に村に入ってはいけません。土着的体質が強く残るフィジーでは、外から来る人も村の決まりに強く従わなければなりません。村の酋長が良しと言わない限り、勝手なことはできない、フィジーはそんなところです。

多くのフィジー人はキリスト教徒です。どの村にも教会があり、日曜日は教会に参列します。日曜日は労働が禁止され、炊事や洗濯も労働にみなされるため、炊事も自分の服を洗うことすらもしません。だから、フィジーの日曜日は、食事は早朝にまとめて作り、朝も昼も夜も同じものを食べます。昼は教会に参列し、参列が終わった午後は昼寝をする。とにかく動かないのが習わしです。

十勝毎日新聞